

# 平成 23 年度 事務 事業 評価 表

様式

事務事業名	上島架橋整備事業費			事務事業番号	db10 03	22db0902
担当課・係・責任者	道路建設課	橋梁係	篠原真司	内線番号	4429	
実施期間	始期 H15	終期	根拠法令等	道路法第56条		

## 1 事業の概要

事業の必要性	上島架橋は、離島同士が合併した上島町の一体化を支援するため、また、定住促進や産業経済の活性化等を図るため、整備を行うものである。平成23年2月に開通した生名橋工区に引き続き、残る岩城橋工区の整備を進める。																																					
1 路線名	一般県道岩城弓削線																																					
2 区間及び延長	<table border="1"> <tr> <th>工区</th> <th>区間</th> <th>本体橋</th> <th>取付道路</th> <th>島内道路</th> <th>工区計</th> </tr> <tr> <td>岩城橋工区</td> <td>越智部上島町岩城～生名</td> <td>0.6 km</td> <td>1.4 km</td> <td>(4.0 km)</td> <td>2.0 km</td> </tr> <tr> <td>生名橋工区</td> <td>生名～弓削佐島</td> <td>0.5 km</td> <td>0.7 km</td> <td>0.7 km</td> <td>1.9 km</td> </tr> </table>						工区	区間	本体橋	取付道路	島内道路	工区計	岩城橋工区	越智部上島町岩城～生名	0.6 km	1.4 km	(4.0 km)	2.0 km	生名橋工区	生名～弓削佐島	0.5 km	0.7 km	0.7 km	1.9 km														
工区	区間	本体橋	取付道路	島内道路	工区計																																	
岩城橋工区	越智部上島町岩城～生名	0.6 km	1.4 km	(4.0 km)	2.0 km																																	
生名橋工区	生名～弓削佐島	0.5 km	0.7 km	0.7 km	1.9 km																																	
3 事業内容(岩城橋工区)	橋梁工、取付道路工、用地買収、調査測量設計、航路交付金																																					
4 事業計画	<p>上島架橋計画概要</p> <table border="1"> <tr> <th>区間</th> <th>主橋梁</th> <th>事業費(工期)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>生名橋～佐島</td> <td>生名橋</td> <td>約 7.7 億円</td> <td>橋梁・取付道路:74億円 島内道路: 9億円 平成23年2月6日供用</td> </tr> <tr> <td>Le1.9km</td> <td>515m</td> <td>H15～H22年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>岩城橋～生名島</td> <td>岩城橋</td> <td>約 1.2 0 億円</td> <td>橋梁・取付道路:120億円 H25～H33年度予定 (122-2橋単基礎調査予定) (島内道路11億円内)</td> </tr> <tr> <td>Le3.0km</td> <td>約1.600m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>約 1 9 7 億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Le4.9km</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>&lt;参考&gt; 佐島～弓削島 Le1.2km</td> <td>弓削大橋 567m</td> <td>約 4.8 億円 H元～H 7年度</td> <td>平成8年3月供用</td> </tr> </table>		区間	主橋梁	事業費(工期)	備考	生名橋～佐島	生名橋	約 7.7 億円	橋梁・取付道路:74億円 島内道路: 9億円 平成23年2月6日供用	Le1.9km	515m	H15～H22年度		岩城橋～生名島	岩城橋	約 1.2 0 億円	橋梁・取付道路:120億円 H25～H33年度予定 (122-2橋単基礎調査予定) (島内道路11億円内)	Le3.0km	約1.600m			計		約 1 9 7 億円		Le4.9km				<参考> 佐島～弓削島 Le1.2km	弓削大橋 567m	約 4.8 億円 H元～H 7年度	平成8年3月供用	<p>5 23年度実施内容</p> <p>23年度事業費 228,200 千円</p> <p>(1)県単独基礎調査 37,000 千円 (2)上島架橋航路関係者連絡協議会経費 2,212 千円 (3)生名橋一般旅客定期航路事業縮小等交付金 188,988 千円</p>			
区間	主橋梁	事業費(工期)	備考																																			
生名橋～佐島	生名橋	約 7.7 億円	橋梁・取付道路:74億円 島内道路: 9億円 平成23年2月6日供用																																			
Le1.9km	515m	H15～H22年度																																				
岩城橋～生名島	岩城橋	約 1.2 0 億円	橋梁・取付道路:120億円 H25～H33年度予定 (122-2橋単基礎調査予定) (島内道路11億円内)																																			
Le3.0km	約1.600m																																					
計		約 1 9 7 億円																																				
Le4.9km																																						
<参考> 佐島～弓削島 Le1.2km	弓削大橋 567m	約 4.8 億円 H元～H 7年度	平成8年3月供用																																			

## 2 対象(誰、何を対象に)、意図(どういう状態にしたいのか、具体的に意図する状態を記入)

対象	上島町民および通勤・観光等の来町者
意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>上島地域の定住促進や産業経済の活性化等を図る、また、合併を行った上島町の一体化を支援する。</li> <li>町民や来町者の安全性、利便性の向上や、快適な生活環境の確保。</li> </ul>

## 3 指標、人件費の内容

活動指標名(事業の内容を表す指標)			
A:	計画予算に対する 実施済予算の割合	B:	C:
成果指標名(意図の達成度合いを表す指標)			
D:	上島町内の役場・支所間の連絡率	E:	
選択理由	離島で構成される上島町の島々を結ぶ指標となる。	選択理由	
算定方法	道路が供用された区間数 / 町役場と各支所を連絡する区間数	算定方法	

区分	A 活動指標		B 活動指標		C 活動指標		D 成果指標		E 成果指標		F 事業コスト					
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算	決算	人件費	
単位	割合				割合		%		%		%		千円	千円	人役 千円	
20年度	10	10					0	0	-	-	-	-	1,865,054	1,782,826	11.0	76,802
21年度	5	5					0	0	-	-	-	-	904,085	904,085	11.0	76,549
22年度	5	5					50	50	-	-	-	-	959,940	1,086,515	10.0	68,850
23年度	1	1					50	50	175.0%				228,200	201,563	3.5	24,101
24年度 目標値	1						50		D +							
最終目標							100		E +				23予算 財源内訳	国費 1,014	その他	県費 227,186

## 4 事業の評価

関与の必要性	3 県が実施すべき	理由	上島架橋は「生名橋」「岩城橋」の2橋の離島架橋を実施し、上島町内の4島(旧3町村)を陸路で接続する事業である。事業の成果は、1橋が完成・供用したときに表われるため、「生名橋」完成時のH22年度に1/2の成果が、「岩城橋」完成時に残る1/2の成果が達成できることとなる。 なお、「岩城橋」完成・供用で4島(旧3町村)が接続されるため、現計画以上の成果向上は無い。
有効性	<p>成果動向 -66.7% 1順調でない</p> <p>成果向上余地 69.2% 3大幅な向上が可能</p>		
効率性	<p>効率化の余地 (コスト改善策) 無</p> <p>受益者負担 無し(拡大の余地なし)</p>	理由	残る「岩城橋工区」のルート検討や橋種選定を行う予備設計をH23年度から実施しており、これらが決定するのは24年度の後半となる。このため、「岩城橋工区」の必要事業費は設計を終えた時点で見直しとなる。
中四国各県との比較	他県より水準が低い	理由	広島県の島々においては着々と離島架橋が進捗しており、多くの離島が本土とつながっている。既に14橋の架橋を整備しており、本県の水準は低いと言わざるを得ない。

## 5 今後の事業方針(翌年度当初予算に対する事業担当課の方針)

改善・見直しの方向等	このまま継続	説明	23年度から岩城橋の地質調査や予備設計などの基礎調査に着手したところであり、24年度当初予算には、補助事業化の前提となる橋の形式や規模などを決定するために必要な基礎調査費用を要求しており、25年度に補助事業を導入した本格着手を目指す方針である。
2～3年後の見直しの可能性	有	明	